

ニホンツキノワグマ (*Ursus thibetanus japonicus*) における 血液と糞を用いた性ホルモン測定による繁殖生理の解明

大滝 侑介¹⁾, 小野 香織¹⁾, 百武 真梨子¹⁾,
石井 裕之²⁾, 大沼 友有子²⁾, 田坂 翔太²⁾, 楠田 哲士³⁾

(¹⁾ 横浜市立野毛山動物園, ²⁾ 横浜市繁殖センター, ³⁾ 岐阜大学応用生物科学部)

国内におけるニホンツキノワグマ (*Ursus thibetanus japonicus*) の無麻酔下での採血例は少なく, 血中の性ホルモン測定による繁殖生理学的研究も少ない。本調査では繁殖生理の解明を行うために, 採血のトレーニングを実施し, 得られた血液および糞中に含まれる性ステロイドホルモン測定を行い, その相関関係を調べ糞中ステロイドホルモン測定の有用性を調査した。

採材は血液と糞からとし, 血液は 2014 年 4 月から 2015 年 12 月まで週 1 回を目安に採血を行った。採血は雌雄ともにトレーニングによって両前腕の橈側皮静脈より行った (Otaki, 2015)。糞は 2014 年 5 月から 2015 年 9 月まで毎日採取した。採材したサンプルは, 横浜市繁殖センターにて, 雄ではテストステロンを雌ではエストラジオール-17 β とプロジェステロンを酵素免疫測定法により解析した。

オスでの糞中ステロイドホルモン測定の有用性は確認できなかったが, メスでは糞中ステロイドホルモン測定の有用性は確認できた。